

国語(書写)

目次

1	国語科書写改訂のポイント	1
2	国語科書写における目標のポイント	1
3	国語科書写の内容のポイント	2
4	各学年の指導のポイント	3
5	国語科書写の指導計画作成上のポイント	5
6	学年別年間指導計画例	9
7	指導例	15

1 国語科書写改訂のポイント

〔中央教育審議会答申における国語科の改善の基本方針より〕

- 国語科については小学校・中学校・高等学校を通じて、言語の教育としての立場を一層重視し、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることに重点を置いて内容の改善を図る。
- 小学校においては日常生活に必要な国語の能力の基礎を、中学校においては社会生活に必要な国語の能力の基礎を、高等学校においては社会人として必要な国語の能力の基礎をそれぞれ確実に育成するようにする。
- 書写の指導については、実生活や学習場面に役立つよう、内容や指導の在り方の改善を図る。

〔中央教育審議会答申における国語科の改善の具体的事項より〕

- 日常生活に必要な基礎的な国語の能力を身に付けることができるよう、次のような改善を図る。
 - ・発音・発声、文字、表記、語彙、文及び文章の構成、言葉遣い、書写については、実際の言語活動において有機的にはたらくよう、関連する領域の内容に位置付けるとともに、必要に応じてまとめて取り上げるようにする。
 - ・漢字の指導については、日常生活において確実に使えることを重視し、実際の文章や表記の中で繰り返し学習させるなど、児童の実態に応じた指導を充実する。
 - ・書写の指導については、手紙を書いたり記録をとったりするなどの実際の日常生活や学習活動に役立つよう、内容や指導の在り方の改善を図る。

2 国語科書写における目標のポイント

国語科の目標は次のとおりである。

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

- ① 前段では、国語の能力の根幹となる、国語による表現力と理解力を育成することが、国語科の最も基本的な目標であることを述べている。「適切に表現」する能力と「正確に理解する能力」とは、連続的かつ同時的に機能するものであることから最初に位置付けられている。

書写においては、筆順や字体・字形を正しくして、文字を適切に書く能力と正確に理解する能力の両面の育成が求められる。つまり、相手、目的や意図、場面や状況などに応じて適切に表現したり正確に理解したりするなど、日常生活に生きてはたらく力として育成することが大切である。

- ② 「伝え合う力を高める」とは、人間関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力を高めることである。

書写においては、文字や文、文章を書き表す際に、読み手への伝達効果を考えて書くとともに、単に手本にしたがって字体や字形練習を繰り返すだけでなく、学習集団として影響し合い高め合うという学習姿勢を培うことが大切である。

- ③ 後段では、まず、「思考力や想像力及び言語感覚」を養うということを述べている。「思考力や想像力」とは、言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊かに創造する力である。また、「言語感覚」とは、言葉の使い方の、正誤・適否・美醜などについての感覚のことである。

書写においては、文字感覚、つまり、正誤・適否・字形・間隔・バランス・漢字や仮名の調和などについての鋭い感覚のことであり、文字に対する感性を養うことが大切である。また、「比較する」、「発見する」、「考える」など多様な学習活動を工夫することで、文字を正しく見る目、鑑賞する力などを養うとともに、新たな発想や思考を創造する力をはぐくむ。

- ④ 「国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる」ことを求めているのは、国語が、人間としての知的な活動や文化的な活動の中枢をなし、一人一人の自己形成、社会生活の向上、文化の創造と継承などに欠かせないからである。

書写においては、文字に対する関心・意欲を高め、国語を尊重する態度を育てることが大切である。

3 国語科書写の内容のポイント

- 国語科の内容は、これまでの「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の3領域構成を維持するとともに、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕が新設された。〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の内容は、(1)の「ア 伝統的な言語文化に関する事項」、「イ 言葉の特徴やきまりに関する事項」、「ウ 文字に関する事項」、(2)の書写に関する事項から構成されている。
- 書写については、「B書くこと」の領域や、(1)の「ウ 文字に関する事項」の指導と密接に関連している。

「B書くこと」では、特に「交流に関する指導事項」との関連を図りつつ、目的に応じて筆記具や用材を選択し、文字、書式及び全体構成を工夫して表現することが重要である。

「ウ 文字に関する事項」で関連する内容は、低学年では、平仮名及び片仮名を読み、書くこと、中学年では、漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと、高学年では、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解することである。
- 「(2)書写に関する事項」は、文字を書く基礎となる「姿勢」、「筆記具の持ち方」、「点画や一文字の書き方」、「筆順」などの事項から、「文字の集まり（文字群）の書き方」に関する事項へ、さらに、「目的に応じた書き方」に関する事項へと系統的に指導し、日常生活や学習活動に生かすことのできる書写の能力を育成することが重要となる。

4 各学年の指導のポイント

(1) 各学年の書写に関する指導事項

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
指導事項	<p>ア 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。</p> <p>イ 点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。</p>	<p>ア 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。</p> <p>イ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。</p> <p>ウ 点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。</p>	<p>ア 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。</p> <p>イ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。</p> <p>ウ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。</p>

(2) 各学年の主な指導内容

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
姿勢・執筆	<ul style="list-style-type: none"> 正しい姿勢 筆記具の正しい持ち方 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい姿勢 筆記具の正しい持ち方 小筆の扱い方 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい姿勢 目的に応じた筆記具の選択
用筆・運筆	<ul style="list-style-type: none"> 始筆 送筆 終筆（とめ、はね、はらい） 	<ul style="list-style-type: none"> 点画ごとの筆の動き 毛筆の筆圧 	<ul style="list-style-type: none"> 書く速さ 穂先の動きと点画のつながり
点画	<ul style="list-style-type: none"> 点画の長短、方向 横画、縦画、左払い、右払い、折れ、曲がり、そり、点 	<ul style="list-style-type: none"> 点画の書き方と筆圧 	
点画の組立	<ul style="list-style-type: none"> 点画の接し方、交わり方 	<ul style="list-style-type: none"> 部首と他の部分の組立て方（左右、上下、内外） 部分と部分の関係（等間隔、左右対称、同一方向） 	
筆順	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名、片仮名、漢字の筆順 	<ul style="list-style-type: none"> 筆順と字形 	<ul style="list-style-type: none"> 筆順と字形
字形	<ul style="list-style-type: none"> 文字の概形（○、□、◇、△） 	<ul style="list-style-type: none"> 文字の概形（○、□、◇、△） 	
配列・字配り	<ul style="list-style-type: none"> 一文字の書き方 	<ul style="list-style-type: none"> 文字の集まり（文字群）の書き方（漢字や仮名の大きさ）（配列：行の中心と文字の中心） 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じた書き方（用紙と文字の大きさ）（文字の大きさや配列）（文字の位置）（字間、行間、余白）

(3) 第1学年及び第2学年の指導のポイント

- 「筆記具」は、低学年では、鉛筆やフェルトペンを使用する。
- 「持ち方を正しく」するためには、人差し指と親指と中指の位置、手首の状態や鉛筆の軸の角度などを適切にすることが必要である。
- 「姿勢や筆記具の持ち方を正しく」することで、読みやすく整った文字を効率よく書く

ことができる。「姿勢」は、文字を書くときの構えのことであり、正しい姿勢になるには、背筋を伸ばした状態で体を安定させたり、書く位置と目の距離を適度にとったり、筆記具を持ったときに筆先が見えるようにすることが重要である。

- 「文字の形」とは、主として文字の概形のことである。概形とは、「○、□、◇、△」などの形に類型化される文字のおおよその形のことである。文字の概形を類型化して指導することで、文字の形を効率よく捉えられ、整えやすくなる。
- 「丁寧に書く」とは、始筆から送筆、さらに、終筆（とめ、はね、はらい）までを確実に書き、その積み重ねで文字の形を整えていくことである。
- 「点画」とは、文字を構成する「横画、縦画、左払い、右払い、折れ、曲がり、そり、点」などのことである。文字を構成する点画の形状である「長短や方向」及び点画相互の位置関係である「接し方や交わり方」が正しく整っていないと文字として認識されなくなるため注意を要する。
- 「筆順」は、平仮名、片仮名、漢字を書き進む際の合理的な順序が習慣化したものことである。学校教育で指導する筆順は、「上から下へ」、「左から右へ」、「横から縦へ」といった原則として一般に通用している常識的なものである。

(4) 第3学年及び第4学年の指導のポイント

- 「文字の組立て方」では、主に部首と他の部分の組立て方に重点を置く。左右、上下、内外などの関係で一つの文字が組み立てられるという仕組みを理解することを重視する。
また、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)ウ文字に関する事項の「(ウ)漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと。」と関連を図りながら指導を進めること。
- 「形を整えて書く」ために、低学年で指導した「文字の概形」を意識するとともに、一つの文字の構成要素となる部分と部分の関係が、等間隔、左右対称、同一方向であることなどを考えて書くこと。
- 「漢字と仮名の大きさ」とは、漢字と漢字、漢字と仮名、仮名と仮名との相互のつり合いから生じる相対的な大きさのことである。画数の多い文字ほど大きく書き、画数の少ない文字ほど小さく書くと、並べたときに読みやすい文字列になる。一般的に、仮名は漢字よりも小さく書くとよいと言われるのは、仮名が漢字よりも一字の中での構成要素が少ないことによる。
- 「配列に注意して書く」とは、行の中心や行と行との間、文字と文字との間がそろっているかなど文字列及び複数の文字列に注意することである。読みやすい文や文章を書くには、一文字一文字を整えることに加え、文字の集まりという面から整えることが必要である。したがって、書き出しの位置を決めること、行の中心に文字の中心をそろえるように書くことが求められる。なお、字数を多く書くことや、毛筆に慣れるため小筆の活用にも配慮すること。
- 中学年では、低学年で学習した様々な点画を、それぞれの点画とその形を作る筆の動きのタイプや毛筆の筆圧などに注意しながら書くことが求められる。
「筆圧」とは、筆記具から用紙に加わる力のことである。点画には、左右の払いのように筆圧を変化させて書くものや、横画のようにほぼ等しい筆圧で書くものがある。その意味で点画の種類を理解することと呼応しており、点画の書き方と筆圧とを関連付けること

を重視する必要がある。例えば、送筆については、筆圧のかけ方に変化が少ない場合（横画、縦画など）、徐々に筆圧を弱めていく場合（左払い、右払い、はねの部分など）、穂先の位置が移動する場合（折れ、曲がり、そりなど）などがある。終筆部については、止めの形で終わる場合（横画、縦画など）、払いの形で終わる場合（左払い、右払いなど）、はねの形で終わる場合（そり、曲がり、縦画など）などがある。

（5） 第5学年及び第6学年の指導のポイント

- 高学年では、中学年までの文字の形を整えて丁寧に書くことに加えて、生活や学習活動において文字を書く様々な場面において、目的に応じた表現が求められる。
- 「用紙」とは、原稿用紙や便箋などの書式に対応した用紙、半紙、画用紙や模造紙などの白紙、また、それらに準ずる布や金属、ガラスなどの用材全般を指すが、目的に合った用紙を選択する必要がある。
- 「文字の大きさ」は、中学年では文字相互の相対的な大きさの関係であったのに対し、高学年では、主に用紙全体の中での文字の大きさと配列を考える必要がある。したがって、文字の位置、字間、行間などの効果的な配列と、見出しと地の文章といった内容による文字の大きさの関係と、全体の余白の在り方に重点を置く。
- 「書く速さを意識して」とは、書く場面によって速さが異なることを意識することである。速く書く場面だけではなく、ゆっくりと丁寧に書くことが求められる場面もある。書く速さの意識化は、中学校における行書の指導への橋渡しという位置付けになる。
- 「筆記具を選び」の「筆記具」は、鉛筆、フェルトペン、毛筆、ボールペン、筆ペンなどのことである。これらの筆記具を使用する際には、「その特徴を生かして」書けるように、書く部分の材質や形状、色といった用材の選択にも配慮をする必要がある。
- 「穂先の動き」については、中学年で学習した点画の中での動きだけでなく、高学年では、点画から点画へ、文字から文字へと移動していく過程に重点を置く。これにより、「穂先の動き」を意識して書くことで「点画のつながり」が出ることになる。また、穂先の柔軟さが筆圧を吸収し、強弱のあるリズムカルな運筆を可能にする毛筆の特性を生かして、書き始めから書き終わりまで無理なく書き進める効率よい書写のリズムを習得させたい。また、小筆や筆ペンなどを使用して、日常で文字を書く条件に近付ける工夫が求められる。

5 国語科書写の指導計画作成上のポイント

（1） 国語科の目標を踏まえること

2で示した国語科の目標は、すなわち書写の目標である。つまり、国語科書写の指導のねらいは、文字を正しく整えて書く能力を養うことである。そのためには、言語記号としての文字の定着や活用を考え、基礎的・基本的な事項を的確に身に付けるさせことが重要である。また、日常生活に役立てるよう、文字を生活や学習活動の中で場面や用途に合わせて自由に活用できることが大切である。

（2） 書写の授業時間数を確保すること

「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」2の(2)

硬筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は第3学年以上の各学年で行うこと。また、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導し、文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、各学年年間30単位時間程度を配当すること。

低学年では、確実な文字活用の力を獲得させるために、姿勢、筆記具の持ち方、正しく丁寧に書く態度、筆順等の指導を綿密に行い、習慣化することが大切である。この学習は、根気強く継続的に取り組むことによってはじめて実現するものであり、特に、初期の段階においては書写の時間を十分に確保する必要がある。さらに、国語科だけでなく全教科の学習の中で配慮し、児童の書写力を高めていかなければならない。

第3学年以上の各学年では、毛筆を使用する書写指導の授業時数を、「年間30単位時間程度」を配当することが示されている。これは、第3学年以上の各学年における毛筆を使用する書写の授業を毎週1単位時間程度行うことを意味している。

「毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導し」とあることから、毛筆による書写指導が、同時に硬筆の書写能力の向上に役立つような指導が必要である。

また、「文字を正しく整えて書くことができるようにする」とあるのも、国語科における毛筆書写のねらいを明確に示したものである。文字を正しく整えて書く能力を身に付けることは、日常生活における硬筆による書写の能力を高める基礎となる。したがって、毛筆で正しく整えて書くことの基礎・基本を硬筆に関連させた指導計画や指導法を創意工夫することが大切である。

(3) 各学年の指導内容を的確に把握すること

各学年の指導内容については、第1学年と第2学年、第3学年と第4学年、第5学年と第6学年のそれぞれ2学年ずつにまとめて示している。これは、学校や児童の実態に応じて重点的に指導ができるよう、指導内容が系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的な繰り返しの学習を基本としているからである。したがって、2学年のまとまりの中で、児童の実態に応じて重点的に指導内容を取り上げ、確かな書写力の定着を図ることが大切である。

(4) 毛筆による書写指導は、硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導すること

毛筆による指導は、文字を大きく書くことによって、点画を書く要領や字形を整える方法を理解するうえで効果があり、「文字を整えて書く」ための基礎的な指導事項ともなる。また、点画の接し方や交わり方、点画の方向についても意識的に大きく書くことにより確認がしやすい。さらに、終筆の書き方の違いなど、細部まで確かめながら書くことのできる利点をもっている。このように毛筆は、硬筆書写の基礎・基本を身に付けさせるためには効果的な筆記具である。国語科における毛筆による書写指導は、作品展に向けて「上手な書作品」を書く能力を養うということが目的ではない。あくまでも、毛筆を使って「文字を正しく整えて書くことの基礎・基本」を指導し、硬筆による書写の能力の基礎を養うよう関連させて指導を行うことが大切である。

(5) 硬筆書写と毛筆書写との関連を図った授業の展開

第3学年からは、毛筆書写と硬筆書写とをどう関連させて進めるかが重要な課題となる。特に1単位時間内に硬筆、毛筆の両方を取り上げる指導計画の場合は、日常生活における硬筆による書写能力を高めるという目標をもって、指導計画を作成することが重要である。具体的には次のように考えることができる。

- ① 1単元を2単位時間とし、2時間すべて毛筆書写を行う。
- ② 1単元を連続2単位時間とし、硬筆書写を最初の導入部分や最後のまとめの部分に位置付ける。
- ③ 1単元を2単位時間とし、1時間目は毛筆書写を、2時間目は毛筆書写をするなかで毛筆と同一あるいは同じ要素の文字の硬筆書写を行う。
- ④ 1単元を3単位時間とし、1、2時間目は毛筆書写を行い、3時間目は毛筆と同一あるいは同じ要素の文字の硬筆書写を行う。

②・③は毛筆書写を行う中のどこかの部分で硬筆書写を行う例である。なお、④については、硬筆書写を独立した1時間で行うように見えるが、毛筆書写の指導内容と関連を図ったものとなるように留意すること。毛筆を使用する書写指導の授業時数は、第3学年以上の各学年で「年間30単位時間程度」とすることから、独立した硬筆書写の時間が多くなることは望ましくない。したがって、年間計画や単元ごとの計画を作成する際には、毛筆書写と硬筆書写の関連を十分に検討することが重要である。

なお、書写の教科書には硬筆による手紙文、掲示物、調査のまとめなどの例が掲げられているが、**3**でも示したように、これらは「B書くこと」等の学習と関連付け、発表や交流で使用する資料を作成する際にも活用すること。具体的には、目的や特徴に応じて、筆記具、用紙、文字、全体構成などを工夫することになるが、各学年の発達段階やその他の学習内容に応じて関連を図ることが大切である。

(6) 個に応じた指導内容・方法を考えることと練習時間の確保

児童一人一人の興味・関心を大切にし、児童が課題をもち、何をどのように学ぶかという主体的な学習の仕方を身に付け、学ぶことの楽しさや成就感を体得させることが大切である。また、文字感覚を磨き、生活に必要な文字を正確に表現しようとする能力や態度を育成することが必要である。具体的には、児童一人一人が、興味をもって主体的に取り組むために、ワークシートを工夫したり、水書板・視聴覚機器等を用意したりして、一人一人がめあてをもって学習できるよう工夫する必要がある。書写力は実際に書く活動を通して身に付くものであるから、一斉指導は原則や基本を理解させるための必要最小限度にとどめ、目標や観点に沿って練習できる時間を可能な限り多くとることが望ましい。

(7) 適切な教材の選定

教材の選定に当たっては、児童の発達段階に即して適切な題材を選定することに留意する必要がある。

児童は様々な言語活動を通して言語能力を身に付けていく。したがって、教材の内容となる題材は、情操を豊かにすること、たくましく生きる態度を育てること、論理的な思考力を育てること、我が国の伝統や文化に対する関心や理解を深めること、国際理解を深め国際協調の精神を養うことなどに役立つものを選ぶよう配慮する必要がある。

書写においても、地域や児童の実態を踏まえ、単元あるいは指導内容の目的達成のため、

最も適切な教材を選定することが大切である。実際には、教科書教材を中心とした指導計画を作成するケースが多いと思われるが、教科書だけにとどまらず、語句や文章を広く選定し、その意味についても十分理解させ、他教科等での書写活動にも活用・発展させるよう配慮することが必要である。その際、特に、我が国の伝統や文化に対する関心や理解を深めるといった点に配慮し、奈良の伝統文化等に触れさせるとともに各校の実態に応じた教材を積極的に選定していくことが大切である。

6 学年別年間指導計画例

(1) 第1学年

月	単元名	時数	単元の目標	学習内容
4	学習のめあて いろいろな線 書く姿勢	6	<ul style="list-style-type: none"> 文字を書くことに興味・関心をもつ。 いろいろな線遊びを通して、筆記具の使い方に慣れる。 文字を書く姿勢と鉛筆の持ち方が正しくできる。 自分の名前を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習のめあてを知る。 直線や曲線などをなぞって書く。 正しい姿勢や鉛筆の持ち方を合い言葉で学習する。 自分の名前を書く。
5	とめ、はね、はらい 折れ、曲がり、折り返し 筆順	8	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名の送筆や終筆の違いが分かる。 平仮名の送筆の違いが分かる。 平仮名の筆順を確かめながら書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「とめ・はね・はらい」に注意して、文字や語句を書く。 「折れ・曲がり・折り返し」に注意して、文字や語句を書く。 筆順を確かめながら送筆や終筆に注意して、丁寧に書く。
6	むすび 小さい文字	8	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名の「むすび」の書き方の違いが分かる。 促音や拗音の文字の大きさ、書く位置に注意して書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「むすび」の書き方の違いに注意して書く。 促音や拗音のある語句を用いて、文字の大きさや位置に注意して書く。 紹介のためのメモを書く。
7	文字の形	4	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名の概形の違いが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名の五十音表を用いて、概形の違いを理解する。
9	いろいろな点画	4	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の基本点画を知り、書き方に慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな線（直線・折れ・はね・とめ・はらい・曲がり）を書くことで基本点画を知り、それらの書き方に慣れる。
10	とめ、はね、はらい 折れ、曲がり、そり	4	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の終筆の違いが分かる。 漢字の送筆の違いが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「とめ・はね・はらい」に注意して、文字や語句を書く。 「折れ・曲がり・そり」に注意して、文字や語句を書く。
11	点画の長さや方向	4	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の点画の長さの違いや方向の違いが分かる。 縦書き・横書きに慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 点画の長さや方向の違いに注意して書く。 紹介文や手紙を書く。
12	文字の形	3	<ul style="list-style-type: none"> 漢字や仮名の概形の違いが分かる。 1・2学期で学習したことを生かして書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字の概形に注意して書く。 年賀状を、筆順、送筆・終筆、概形に注意して、丁寧に書く。
1	とめ、はね、はらい、折れ、曲がり 筆順	4	<ul style="list-style-type: none"> 片仮名の送筆や終筆の違いが分かる。 片仮名の筆順を確かめながら書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「とめ・はね・はらい」や「折れ・曲がり」に注意して、文字や文を書く。 筆順を確かめながら送筆や終筆に注意して、丁寧に書く。
2	文字の形 筆順	4	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の形の似ているところが分かる。 間違いやすい筆順に注意して書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字の概形を知るとともに、似ているところに注意して書く。 間違いやすい筆順の文字に注意して書く。
3	見て書く 1年生のまとめ	3	<ul style="list-style-type: none"> 黒板の文字を見て書き写す。 1年生で学習したことに注意して書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 黒板の言葉を連絡帳に間違いずに丁寧に書く。 自分の名前を書く。

(2) 第2学年

月	単元名	時数	単元の目標	学習内容
4	学習のめあて 文字の形 書く姿勢 文字の形	5	<ul style="list-style-type: none"> 文字の形や部分を調べる活動が中心となる2年生の学習に関心をもつことができる。 文字を書く姿勢と鉛筆の持ち方が正しくできる。 文字の形に注意して書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字の形や部分の調べ学習をする。 2年生の目標を文章で書く。 正しい姿勢や鉛筆の持ち方を合い言葉で学習する。 平仮名・片仮名・漢字の形に注意して書く。
5	とめ、はね、はらい、折れ、曲がり 画の接し方と交わり方	6	<ul style="list-style-type: none"> 片仮名の画の始筆・送筆・終筆に注意して書くことができる。 片仮名の画の「接し方・交わり方」に注意して書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「とめ・はね・はらい・折れ・曲がり」に注意して書く。 「接し方・交わり方」に注意して書く。
6	文字の形 筆順	6	<ul style="list-style-type: none"> 片仮名の概形を理解して書くことができる。 よく似た片仮名の筆順を知り、字形を整えて書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字の概形に注意して書く。 よく似た片仮名の筆順を知り、字形を整えて書く。
7	横書き	4	<ul style="list-style-type: none"> 横書きの文字を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 横罫用紙に横書きの文字が曲がらないように書く。
9	画の方向 文字の大きさ	5	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の画の方向（左払い・右払い・はね・とめ・曲がり・そり）を知り、書き方に慣れる。 文字の大きさに注意して、原稿用紙に書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の基本点画を知り、書き方に慣れる。 夏休みの思い出を文章で書く。 漢字・仮名交じりの文を文字の大きさに注意して原稿用紙に書く。
10	点画の長さや画と画の間隔 画の接し方	5	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の点画の長さや間隔を考えて書くことができる。 漢字の画の接し方の違いが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 点画の長さや間隔を考えて書く。 画の接し方に注意して書く。 身の周りにあるものを説明する文章を書く。
11	画の交わり方 文字の大きさ	5	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の画の交わり方に注意して書くことができる。 文字の大きさに注意して書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 画の交わり方に注意して書く。 漢字・平仮名・片仮名交じりの文を文字の大きさに注意して方眼用紙に書く。
12	文字の形	3	<ul style="list-style-type: none"> 文字の形に注意して丁寧に書くことができる。 字形と全体の調和に注意して書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字の形や大きさに注意して書く。 年賀状を、字形や文字の大きさに注意して書く。
1	文字の形 文字の中心	4	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の概形の違いを理解して書くことができる。 文字の中心を理解し、字形を整えて書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字の概形に注意して書く。 文字の中心を理解して、字形を整えて書く。
2	文字の形 筆順	4	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の形の似ているところを理解して書くことができる。 間違いやすい漢字の筆順に注意して書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> よく似た部分のある漢字に注意して書く。 間違いやすい漢字の筆順に注意して書く。
3	2年生のまとめ	3	<ul style="list-style-type: none"> 2年生で学習したことに注意して書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 字形や筆順、点画の長さや方向などに注意して書く。

(3) 第3学年

月	単元名	時数	単元の目標	学習内容
4	学習のめあて 姿勢・用具・用材	3	<ul style="list-style-type: none"> 毛筆の正しい姿勢や筆の持ち方、用具・用材の扱いができる。 毛筆の特性について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい姿勢や筆の持ち方、用具の配置や扱い方を理解する。 毛筆の特性について理解して書く。
5	横画	4	<ul style="list-style-type: none"> 横画の筆使いができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 横画を書く場合の始筆・送筆・終筆の筆使いや方向に注意して書く。 穂先の通り道を考えて書く。
6	縦画	4	<ul style="list-style-type: none"> 縦画の筆使いができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 縦画を書く場合の始筆・送筆・終筆の筆使いや方向に注意して書く。 穂先の通り道を考えて書く。
7	筆順 文字の大きさ	4	<ul style="list-style-type: none"> 筆順の原則を理解し、正しい筆順に従って書くことができる。 漢字や仮名の大きさに注意して書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 間違いやすい筆順に注意して書く。 今までの毛筆学習を生かして、原稿用紙に自己紹介文を硬筆で丁寧を書く。
9	折れ 文字の組立て方	3	<ul style="list-style-type: none"> 折れの筆使いができる。 上下や左右の部分などの組立て方に注意して書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 折れの筆使いに注意して書く。 左右・上下・たれ・によろ・かまへの組立て方に注意して書く。
10	払い	4	<ul style="list-style-type: none"> 左右の払いの筆使いができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 左右の払いの筆使いに注意して書く。 今までの毛筆学習を生かして、硬筆で書く。
11	はね 文字の中心	3	<ul style="list-style-type: none"> はねの筆使いができる。 文字の中心をを考えて書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> はねの筆使いを理解して書く。 文字の大きさや中心に注意して書く。
12 1	文字の中心と配列 (字配り)	6	<ul style="list-style-type: none"> 漢字や仮名の中心や字配りに注意して書くことができる。 行の中心をを考えて横書きで書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字の中心や字配りに注意して書き初めをする。 名前を書く位置に注意して小筆で書く。 横書きの文字のそろえ方を理解し、文字の大きさや行の中心に注意して硬筆で書く。
2 3	3年生のまとめ	5	<ul style="list-style-type: none"> 3年生で学習した文字の組立て方などに注意して毛筆で書くことができる。 3年生で学習した毛筆の学習を生かして、硬筆で丁寧を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生で学習した筆使いや文字の組立て方に注意して毛筆で書く。 3年生で学習した毛筆の学習を生かして硬筆で丁寧を書く。

(4) 第4学年

月	単元名	時数	単元の目標	学習内容
4	学習のめあて 姿勢・用具・用材	3	・3年生までに学習したことを復習し、4年生で学習することを理解する。	・正しい姿勢や筆の持ち方、用具の配置や扱い方を確認する。
5	画の長さ	4	・横画の長さを理解する。	・横画の長さに注意し、字形を整えて書く。
6	画の方向	4	・横画や左払いの方向を理解する。	・横画や左払いの方向の違いに注意し、字形を整えて書く。
7	文字の組立て方	4	・部分と部分の関係に注意して書くことができる。	・等間隔、左右対象、同一方向といった部分と部分の関係を理解し、字形を整えて書く。 ・今までの毛筆学習を生かして、硬筆で書く。
9	筆順と字形 筆圧	3	・筆順と画の長さや概形を理解する。 ・左右の払いの筆圧に注意して書くことができる。	・筆順と画の長さや概形を理解し、字形を整えて書く。 ・左右の払いの筆圧の変化に注意して書く。
10	文字の組立て方	3	・部首と他の部分の組立て方を理解する。	・上下・内外といった部首と他の部分の組立て方に注意して書く。 ・学習したことを生かして行を整えて硬筆で文章を書く。
11	平仮名の筆使い 文字の大きさ	4	・平仮名の筆使いを理解する。 ・漢字と仮名の大きさや配列に注意して書くことができる。	・平仮名の、曲がり・折れ・折り返し、むすびの筆使いを理解し、字形を整えて書く。 ・文字の大きさが異なることを理解して書く。
12	配列（字配り）	5	・字配りに注意して書くことができる。	・行と文字の中心や大きさなどに注意して、長い紙に書き初めをする。 ・小筆の持ち方や使い方に注意して、名前を丁寧に書く。
1	文字の集まり	2	・漢字や仮名からなる複数の文字の字配りに注意して書くことができる。	・漢字と仮名の大きさや文字の間隔、行の間隔、行の中心に注意して書く。
3	4年生のまとめ	3	・4年生で学習した文字の組立て方や字配り、筆圧に注意して書くことができる。	・点画の長さや方向、筆順と字形の関係、字配りや点画の筆圧に注意して書く。

(5) 第5学年

月	単元名	時数	単元の目標	学習内容
4	学習のめあて 姿勢・用具・用材	3	・4年生までに学習したことを復習し、5年生で学習することを理解する。	・正しい姿勢や筆の持ち方、用具の配置や扱い方を確認する。 ・4年生の毛筆で学習した基本点画に注意して書く。
5	文字の組立て方 (左右)	4	・文字の左右の組立て方を理解して書くことができる。	・扁と旁(つくり)から成る文字の組立て方の特徴について話し合い、理解を深め、字形に注意して書く。
6	文字の組立て方 (上下)	4	・文字の上下の組立て方を理解して書くことができる。	・上下の部分から成る文字の組立て方の特徴について話し合い、理解を深め、字形に注意して書く。
7	文字の組立て方 (たれ)	4	・たれのある文字の組立て方を理解して書くことができる。	・たれのある文字の組立て方の特徴や文字の中心について話し合い、理解を深め、字形に注意して書く。 ・今までの毛筆学習を生かして、硬筆で書く。
9	文字の組立て方 (かまえ)	3	・かまえのある文字の組立て方を理解して書くことができる。 ・学習したことを生かして、硬筆で書く。	・かまえから成る文字の組立て方の特徴や文字の大きさについて話し合い、理解を深め、字形に注意して書く。 ・依頼状やお礼状を便箋に書く。
10	文字の形と行の中心	4	・平仮名の字形と行の中心を理解して書くことができる。	・平仮名の字形を理解し、文字の中心と行の中心の関係に注意して書く。 ・小筆の持ち方や使い方に注意して、名前を丁寧に書く。 ・学習したことを生かして行を整えて硬筆で文章を書く。
11	文字の大きさ	3	・漢字と仮名の大きさの違いに注意して書くことができる。	・文字の大きさが異なることを理解して書く。
12 1	配列(字配り)	5	・字配りに注意して書くことができる。	・用紙に対する、文字の大きさ、行の中心、字間、余白など、字配りで注意することを調べる。 ・筆使いや字形、字配りに注意して、長い紙に書き初めをする。 ・小筆の持ち方や使い方に注意して、名前を丁寧に書く。
2 3	5年生のまとめ	5	・5年生で学習したことを生かして書くことができる。	・5年生で学習したことを、みんなで話し合う。 ・自分の好きな言葉を選び、各自のめあてにしたがって、毛筆で書く。 ・伝えたいことを分かりやすく伝えるために、配列を工夫して、ポスターを作る。

(6) 第6学年

月	単元名	時数	単元の目標	学習内容
4	学習のめあて 姿勢・用具・用材	3	<ul style="list-style-type: none"> 5年生までに学習したことを復習し、6年生で学習することを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい姿勢や毛筆学習での用具の扱い方などを確認する。 5年生の毛筆で学習した基本点画等に注意して書く。
5	文字の組立て方 (によう)	4	<ul style="list-style-type: none"> にようのある文字の組立て方を理解して書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> にようのある文字の組立て方の特徴について話し合い、理解を深め、字形に注意して書く。 にようの画数や形に気を付けて、硬筆で書く。
6	文字の組立て方 (二つの部分からなる文字)	4	<ul style="list-style-type: none"> 二つの部分から成る文字の組立て方を理解して書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 二つの部分からなる文字の組立て方の特徴について話し合い、理解を深め、字形に注意して書く。 二つの部分からなる文字の形に注意して、硬筆で書く。
7	文字の大きさ	4	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を並べて書くときに、文字の大きさを考えて書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を並べて書くときの、文字の大きさについて話し合い、理解を深め、字形に注意して書く。
9	文字の組立て方 (三つの部分からなる文字)	4	<ul style="list-style-type: none"> 三つの部分から成る文字の組立て方を理解して書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 三つの部分から成る文字の組立て方に注意して毛筆で書く。 今までの毛筆学習を生かして、硬筆で書く。 様々な用紙にいろいろな筆記具を使って、自作の俳句を書く。
10	行の中心	3	<ul style="list-style-type: none"> 行の中心を理解して書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 行の中心に注意して書く。 横書きは、行の中心に書く場合と、けい線に沿う場合があることを知り、文字の大きさに注意して、硬筆で書く。
11	配列 (字配り)	4	<ul style="list-style-type: none"> 字配りで注意すべき事項をまとめる。 字配りに注意して書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「字配りの約束」を話し合って作成する。 「字配りの約束」を用いて、毛筆や硬筆で書く。
12 1	配列 (字配り)	5	<ul style="list-style-type: none"> 用紙に対する字配りに注意して書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 用紙に対する、文字の大きさ、字間、余白などの字配りについて話し合い、理解を深める。 字配りに注意して書く。 小筆で書くときの注意すべき事項を確かめて書く。
2 3	穂先の動きと点画 のつながり 6年生のまとめ	4	<ul style="list-style-type: none"> 穂先の動きを意識して、点画をつないで書くことができる。 6年生で学習したことを生かして、自分の好きな言葉や文章などを書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 穂先の動きを意識することによって、点画のつながりが出るように書く。 書写の寄せ書きや作品集を作成する。 小学校で学習したことを確認し、中学校での書写学習への意識付けをする。

7 指導例

◆第2学年の指導例

1 単元名 文字の形と中心

2 単元の目標

- 漢字の概形を理解し、丁寧に書くことができる。
- 漢字の中心を理解し、字形を整えて丁寧に書くことができる。

3 単元について

学習指導要領には、第1学年及び第2学年の書写に関する指導事項に、「姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。」や「点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。」が示されている。

本単元においては、「文字の形に注意しながら、丁寧に書く」ための指導として、漢字の概形や中心を理解して丁寧に書くことを目標に設定した。

4 指導について

- 指導においては、OHCなどの視聴覚機器を利用して、興味付けをする。
- ワークシートを利用することで、より意欲的に取り組めるように工夫する。
- 児童一人一人の気付きを大切にする。

5 単元の学習計画（全4時間）

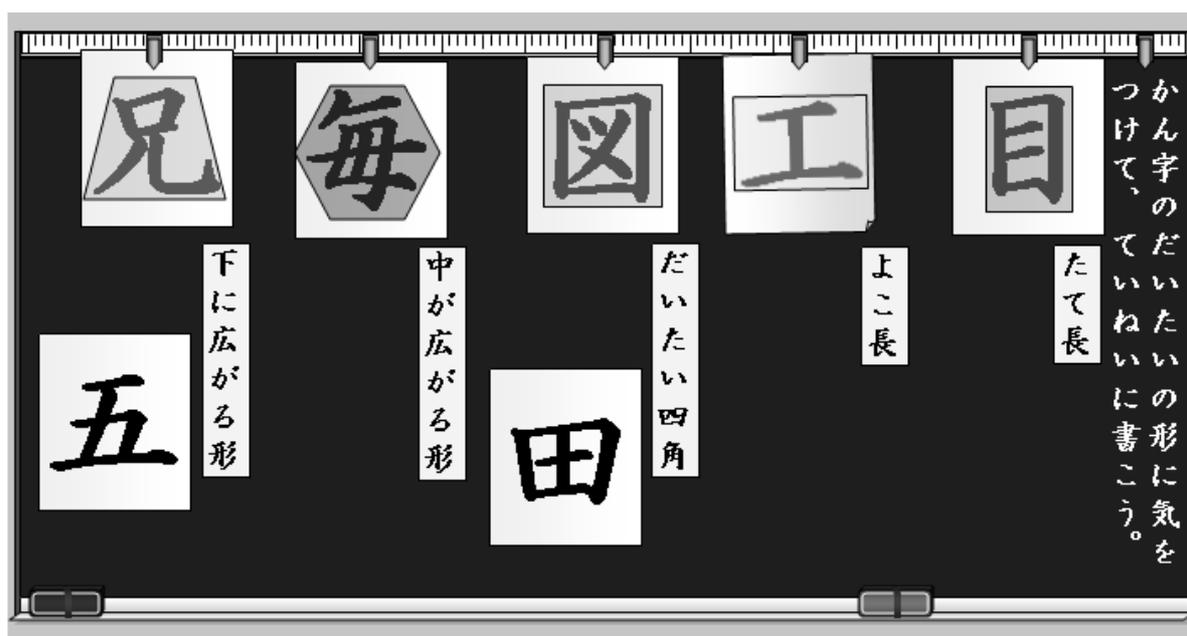
時	ねらいと学習活動	備 考
1	○漢字の概形を理解して、丁寧に書くことができる。 ・概形の透明シートを利用して、文字の概形の種類を確認する。 ・概形を意識して練習する。	・文字を整えて書くときの手がかりとなる事項を復習する。 ・ワークシートを用いて練習する。
2	○漢字の中心を理解して、丁寧に書くことができる。 ・漢字の中心に縦画がある字とない字があることに気付く。 ・漢字の中心に縦画がある字とない字を分類する。 ・縦画が中心にない漢字の中心を意識して練習する。	・中心に縦画がない漢字の場合、第1画目がどこから始まっているかに着目できるように指導する。 ・ワークシートを用いて練習する。
3	○漢字の概形と中心に注意して書くことができる。 ・熟語を文字の概形や中心、文字の大きさに気を付けて書く。	・2字から4文字の熟語を文字の大きさに注意しながら指導する。 ・ワークシートを用いて練習する。
4	○文字の概形と中心に注意して書くことができる。	・漢字よりも平仮名を少し小さく書くように指導する。

<ul style="list-style-type: none"> 漢字と平仮名の混じった短文を、文字の概形や中心、文字の大きさに気を付けて書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名の中心に気を付けさせる。 ワークシートを用いて練習する。
---	--

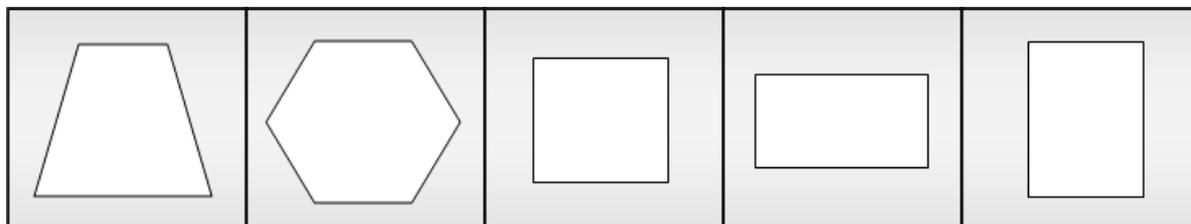
○ 授業展開例（1／4）

児童の活動	指導上の留意点	準備物書
1 準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> 机上の整理と用具の点検。 正しい姿勢を合い言葉で確認する。 	
2 身の回りにある物の形を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 教室にある時計や机、バケツや掲示物といったものを利用して、物には形があることを確認させる。 	
3 本時のめあてを知る。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> かん字のだいたいの形に気をつけて、ていねいに書こう。 </div>		
4 漢字の概形の違いを見付ける。	<ul style="list-style-type: none"> 漢字カードを黒板に掲示し、概形の違いを理解させる。 ① 黒板に5種類の漢字を拡大したカードを掲示する。（目・工・凶・毎・兄の5文字） ② 児童に漢字の概形の違いを発見させる。 <ul style="list-style-type: none"> 自由に発言させる。 発見しにくい場合は、既習事項である片仮名の形の違いを想起させ、気付かせる。 色付き透明シートを利用して、概形の確認をする。（黒板に掲示されている文字に透明シートをはらせる。） 	掲示用文字カード 色付き透明シート
5 漢字の概形に気を付けて練習する。	<ul style="list-style-type: none"> たしかめシートを用いて、形が正しいかを確認させながら書かせる。 	たしかめシート
6 学習した漢字と同じ概形の漢字を探す。	<ul style="list-style-type: none"> 「糸・田・七・五・青」の5文字を概形で分類させる。 ① ワークシートを用いて各自で確認させる。 ② 最初の5文字の下に新しい5文字の文字カードをはらせる。 ③ 色付き透明シートで確認させる。 	掲示用文字カード ワークシート 色付き透明シート
7 本時のまとめ書きをする。	<ul style="list-style-type: none"> 最初に書いた5文字を清書用紙に書かせる。 	清書用紙

8 相互批評をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が書いた文字をOHCに映して、書いた児童と他の児童に感想や意見を述べさせる。 ・数人の児童について同様に行う。 	OHC
9 感想や自己批評を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてに基づいて感想を書くように支援する。 ・試書と比較する際の視点を示す。 ・試書に比べてよくなったところを見付けられるように支援する。 	
10 次時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・次時は漢字の中心を見付けて書く練習をすることを知らせる。 	



○ たしかめシート



◆第4学年の指導例

1 単元名 筆順と字形と筆圧 「左右」

2 単元の目標

- 正しく整った文字を書くことができる。
- 横画と左払いの長さを考え、筆順や筆圧に気を付けて、字形を整えて丁寧に書くことができる。

3 単元について

学習指導要領には、第3学年及び第4学年の書写に関する指導事項に、「文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。」や「点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。」が示されている。

本単元においては、「文字を整えて書く」ための指導として、筆順に気を付けて、文字を整えて丁寧に書くことをめあてに設定した。筆順の違いによって、画の長さが変わったり字形が変わったりする場合がある。筆順に注意することによって、整った文字になることと、筆順の大切さを指導したい。また、「左右」には長さや方向の異なる左払いがあることから、筆圧の変化に応じた太さの変化や方向について学習させたい。

4 指導について

- 導入においては、OHCなどの視聴覚機器を利用して、興味付けをする。
- ワークシートを利用することで、より意欲的に練習できるように工夫する。
- 児童の一人一人の気付きを大切に、自らの課題を見付けさせる。
- 毛筆で学習したことを基に、筆順に気を付けて書かなければならない漢字を硬筆でも練習させる。

5 単元の学習計画（全3時間）

時	ねらいと学習活動	備 考
1	○横画と左払いの長さを考え、筆順に気を付けて、「左右」の文字を整えて丁寧に書くことができる。 ・分解文字を作る。 ・正しい筆順を知る。 ・グループで相互批評をする。	・分解文字については、OHCを利用することで字形や左払いの太さの違いが理解しやすいものにする。 ・相互批評では、よくなったところを見付けられるように支援する。
2	○各自が設定した課題にしたがって、まとめ書きをする。 ・自分の課題にあったワークシートを選択して練習する。 ・自己批評をする。	・多くの課題に対応できるワークシートをあらかじめ作成する。 (例)・左払いの方向と長さ ・横画の方向と長さ ・概形の違い ・始筆の位置
3	○毛筆で学習した内容の理解を、他の筆記具を用いて深める。 ・横画と左払いが接する場合の、筆順の違いを知る。 ・筆順と字形に注意して、硬筆で練習する。 ・自己評価をする。	・横画と左払いの接し方や交わり方がどのようなになっているかを理解しやすくするため、毛筆で拡大文字を作成する。 (接し方の例)「原」と「皮」 (交わり方の例)「用」と「角」

○ 授業展開例（1／3）

児童の活動	指導上の留意点	準備物
1 準備をする。	・机上の整理と用具の点検。 ・正しい姿勢を合い言葉で確認する。	

2	本時のめあてを知る。		
正しい筆順で、文字の形を整えて書こう。			
3	「左右」を分解文字で作る。	・横画と左払いの長さの違いや概形に注意し、正しい「左右」を作ることができるように支援する。	分解文字 OHC
4	正しい筆順を知る。	・空書で正しい筆順を確認する。 ・筆順の違いによって、画の方向・長さや形が変わることに気付かせる。 横画：「右」は「左」よりも長い。 左払い：「右」は「左」よりも短い。 形：「左」は下に広くなり、「右」は下に狭くなる。	
5	試書をする。	・筆順や概形に気を付けて書けるように支援する。	
6	自分の課題を見付け、書写カードに書く。	・左払いの長さや筆圧、概形について、自分の課題が見付けられるようにする。	書写カード
7	自分の課題に沿って練習する。	・各自の課題に沿ったワークシートを選ぶようにさせる。 ・左払いの筆圧による太さの変化が表現できていない児童について、個別に指導する。	ワークシート
8	本時のまとめ書きをする。	・書写カードで自分の課題を確認し、まとめ書きと試書とを比較させる。 ・試書と比較する際の視点を示す。	書写カード
9	グループで相互批評する。	・友達のうまく書けているところを見付けて発言するようにさせる。	
10	書写カードを書く。	・友達の批評を参考にして、試書に比べてよくなった点や、次時の課題を書写カードに記入する。	

◆第6学年の指導例

1 単元名 配列（字配り） 「星ふる夜」「美しい海」「大空の光」

2 単元の目標

- 文字の大きさや配列に注意して書くための方法を考えて書くことができる。

- 穂先の動きと点画のつながりを意識して書くことができる。
- 漢字と仮名の大きさや、文字と行の中心を考えて書くことができる。

3 単元について

学習指導要領には、第5学年及び第6学年の書写に関する指導事項に、「用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。」や「毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。」が示されている。

本単元においては、用紙全体における文字の大きさや、行の中心と文字の中心、字間や行間といった配列に注意して書けるように指導したい。また、「穂先の動きと点画のつながりを意識して」書くことで、筆圧についての理解を深め、点画の流れを身に付けさせたい。さらに、毛筆と違う筆記具を用い、その特徴を生かして書けるよう指導する。

4 指導について

配列に注意して書く力を身に付けさせるため、文字の大きさや配列を「字配りの約束」として表にまとめることで理解しやすくするとともに、目的に応じた書き方に役立つように指導したい。そのため、文字の概形と行の中心の理解、用紙に対する文字の大きさ、行の中心に対する各文字の1画目の始筆の位置等を十分に意識させることを目的としたワークシートを用い、理解を深めさせるとともに技能の向上を図りたい。

- 導入では、OHPなどの視聴覚機器を利用し、字配りのポイントに関心をもたせるようにする。
- 字配りにはいろいろな要素があること理解させるために、ワークシート（骨書き、籠字※、点画のつながり等）を用いて練習することにより、学習意欲を喚起する。
- 毛筆で学んだことに注意して、筆記具を変えて書くことで理解を深める。

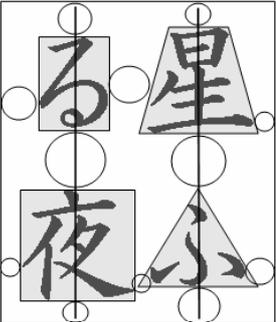
※籠字とは、毛筆で書かれた点画の枠取りをした文字のことである。

5 単元の学習計画（全4時間）

時	ねらいと学習活動	備 考
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「星ふる夜」を見て、用紙全体に対する文字の大きさについて考え、字配りの要素について理解する。 ・ 「星ふる夜」の各文字の大きさを調べる。 ・ グループで「字配りの約束」に入れるべき項目を考えて発表する。 ・ 全員で「字配りの約束」を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 半紙に書いた「星ふる夜」を模造紙大の大きさになるように、OHPを用いて拡大投影し、検討しやすくする。 ・ 各文字の大きさを調べるため、文字の概形を色鉛筆で塗って確認させる。 ・ 「字配りの約束」の項目は五つにすることをあらかじめ知らせ、グループで考えるように支援する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「美しい海」を前時の「字配りの約束」にしたがって、全体の字配りを考えて書くことができる。 ・ 半紙に鉛筆・マジック、色紙等を使用して原稿を作る。 ・ 試書した作品をグループで話し合う。 ・ グループでの話し合いの結果を基にまとめ書きをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各文字をばらばらにした少し小さめの筆文字を配付し、原稿を作成させる。 ・ グループで話し合う際には、マジック等を使用して、試書に書き込みながら行わせる。

3	<p>○「美しい海」の字配りについて全員で検討し、正しい字配りを見付けることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあてに沿ったワークシートを選択して試書をする。 ・まとめ書きをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なワークシートを提示し、ねらいを達成するのに適したものを使用するように指導する。 <p><ワークシートの例></p> <ul style="list-style-type: none"> ア 教科書の手本と同じもの イ 骨書きのもの ウ 行の中心線を引いた籠字のもの エ 籠字に概形線を引いたもの オ 始筆の位置のみを示したもの <ul style="list-style-type: none"> ・左右の払いの筆使いでは、特に筆圧に注意させる。
4	<p>○毛筆で学習した内容の理解を、他の筆記具を用いて深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室に掲示した前時のまとめ書き作品を鑑賞し、「字配りの約束」を確認する。 ・「大空の光」を前時までの学習を基に鉛筆やマジック等で色々な用紙に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞では、「字配りの約束」の表を基に各自の作品についての感想を書写カードに記入させる。 ・B4の用紙、葉書、扇面、団扇などの大きさの用紙に書かせる。

○ 授業展開例①（1／4）

児童の活動	指導上の留意点	準備物
1 準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・机上の整理と用具の点検。 ・正しい姿勢を合い言葉で確認する。 	
2 本時のめあてを知る。	「字配りの約束」をみんなで決めよう。	
<p>3 「星ふる夜」を書くときの注意点を調べる。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・OHPで「星ふる夜」を拡大し、書くときに注意すべき事項を発表させて確認する。 <p><確認内容と方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ア 文字の大きさと形を確認するため、概形に線を引き、枠内を色鉛筆で着色する。 イ 文字と行の中心を確認するため、各行に中心線を引く。 ウ 字間、行間、上下左右の余白を確認するため、左図のように円をかいて示す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ア～ウ等の発表内容を基に各自で確認作業をさせる。 	OHP プリント手本
4 グループで「字配り	<ul style="list-style-type: none"> ・各自のプリントを比較させて、グループとし 	

の約束」を考える。	ての5項目をまとめさせる。	
5 全員で「字配りの約束」を決める。	・グループの意見を発表させてクラスとしての「字配りの約束」5項目を決めさせる。 ※発表ではOHPを利用して説明させる。	OHP
6 書写カードに感想を書く。	・書写カードに字配りに関する感想を記入させる。	書写カード

○ 授業展開例②（3／4）

児童の活動	指導上の留意点	準備物
1 準備をする。	・机上の整理と用具の点検。 ・正しい姿勢を合い言葉で確認する。	
2 本時のめあてを知る。	・前時に決めた「字配りの約束」を示し、内容を確認する。	掲示物 (字配りの約束)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 字配りに気をつけて「美しい海」を書こう。 </div>		
3 書写カードに本時の自分のめあてを書く。	・「字配りの約束」に基づいて「美しい海」を書く場合の注意点を考え、各自のめあてを書写カードに記入させる。	書写カード
4 「美しい海」を試書する。	・文字の大きさの違いを確かめて書くよう支援する。	
5 ワークシートを活用した練習をする。	・各自のめあてに沿ったワークシートを選び練習する。 ・同じめあての人を見つけてグループを作らせ、ワークシートで練習した成果について話し合わせる。	ワークシート (ア～オ)
6 「美しい海」のまとめ書きをする。	・「字配りの約束」を再度掲示し、字配りの注意点を確認した上でまとめ書きをさせる。 ・左右の払いの筆使いでは、特に筆圧に注意させる。	掲示物 (字配りの約束)
7 学習の振り返りと次時のめあてを書写カードに記入する。	・書写カードに本時の感想を記入させる。 ・次時は「大空の光」を筆記具を変えて書くことを知らせ、各自のめあてを考えさせる。	書写カード

— 作成委員 —

松本成美	黒滝村立黒滝中学校	校長
吉岡伸晃	奈良市立神功小学校	教頭
東浦宏之	大和高田市立浮孔小学校	教諭
杉藤榮子	大淀町立大淀希望ヶ丘小学校	教諭
山本肇一	奈良県立教育研究所家庭・幼児教育部	係長
殿村孝平	奈良県教育委員会事務局学校教育課	指導主事

(作成委員の職名等は平成21年度のものである。)